

平成30年度 国立大学法人広島大学物品・役務等契約監視委員会 議事概要

開催日及び場所	平成30年10月24日(水) 10:00~12:00 広島大学東千田キャンパス S114共用講義室	
委員	委員長 金田 晋 (学校法人理事) 委員長 胡田 敢 (弁護士) 委員長 朝長 慎弥 (公認会計士・税理士) 委員 栗栖 長典 (本学監事)	
審査対象期間	平成29年4月1日 ~ 平成30年3月31日	
抽出案件(合計)	12件	(備考) ・質疑応答対応部署 霞地区運営支援部契約グループ 東広島地区運営支援部共通事務室
物品(計)	7件	
一般競争 (政府調達契約)	0件	
一般競争 (政府調達契約を除く)	4件	
指名競争	0件	
随意契約 (公募型企画競争)	0件	
随意契約 (公募型企画競争を除く)	3件	
役務(計)	5件	
一般競争 (政府調達契約)	2件	
一般競争 (政府調達契約を除く)	0件	
指名競争	0件	
随意契約 (公募型企画競争)	0件	
随意契約 (公募型企画競争を除く)	3件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問	
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申	別紙のとおり	

意見・質問等	回答
<p><b>報告</b>  <b>前回の委員会において行った意見の具申(次の1～5)への対応について</b></p> <p>1. 複数年契約かつ随意契約となる場合には、金額だけではなく品質も含めた入念な事前交渉を行ったうえで、契約手続きを行うよう努めること。</p> <p>2. 多数の業務を一括契約とすることで規模が過大となり、競争性が保てない恐れがある場合には、数グループに分けて入札を行うなど競争原理を働かせることも検討すること。</p> <p>3. 機械・システム等の本体導入とその保守点検について、一体で契約するか、別々で契約するかの判断根拠を明確にすること。</p> <p>4. 上記1.～3.について、契約方法・契約内容の決定に際しては、その決定プロセスを文書化して保存すること。</p> <p>5. 業者から提出を受けた各種証明書等に日付漏れが散見されるため、その都度、確実に確認するよう徹底すること。</p> <p><b>【報告に対する質疑応答】</b></p> <p>「1.」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年以降の当委員会でも、同様の案件を継続して取り上げようと考えているので、大学としても定型のフォーマットを作成するなどして、内部の契約担当者だけでなく外部からもチェックできるように記録として残すようお願いしたい。</li> </ul> <p>「2.」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 契約をいくつかのグループにまとめると、固定化しやすいので、契約更新のたびに基準を見直し、その時点での最適な契約が結べるように取り組んでもらいたい。また、一括で契約した場合の成果と、別々に契約した成果を一度きちんと比較してもらいたい。</li> </ul>	<p>以下の点を確認し契約年数を長期で結ぶことが安価に契約できる場合、長期契約を検討している。なお、前回の委員会以後に本件に該当する契約はなかった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当該装置の学内での更新計画</li> <li>2. 修理実績等による契約内容の適正確認</li> <li>3. 長期契約を行うことでの費用削減効果</li> <li>4. 当該装置のサポート対応期間の確認</li> <li>5. 他施設等での納入実績の確認</li> </ol> <p>本契約は23業務を1件として契約したものの結果的に1社入札になり期待した効果(競争による効果)は得られなかった。契約担当事務の軽減になった部分はあるが、次回契約時には数業務に分割して契約することとし、現在のところ次の7業務で検討している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建物設備運転監視保全業務, その他</li> <li>2. 東広島キャンパス以外の団地の電気設備保安管理業務</li> <li>3. 防災設備の機器点検保全業務</li> <li>4. 放射性廃棄物濃度測定業務</li> <li>5. 電話交換機保全業務</li> <li>6. 実験排水処理装置運転監視業務</li> <li>7. 自家用電気工作物保安点検業務</li> </ol> <p>2.から7.は単体契約に戻し、1.にビル管理的な業務を集約する方針で2年後の契約更新に当たりたい。</p> <p>今年度より病院経営検討会で、以下の点を踏まえた上で高額機器について本体導入を検討している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本体代金</li> <li>2. 機械導入後のランニングコストを踏まえた収支計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期点検の必要性</li> <li>・ 保守契約とするかスポット修理とするか</li> <li>・ 消耗品に係る費用</li> </ul> </li> </ol> <p>また、院内の方針として長期間で更新計画を立てているMRI、CTなどの大型機械は、本体と保守を一体で契約をしたことによって保守金額の削減につながっている実績があるため、購入検討時に保守についても見積を徴取し契約実績と値引率を比較するなど、より安価に契約できるものかを調べた上で判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当する案件はなかったが、長期契約を行う際に確認した事項、費用削減効果等を踏まえた意思決定のプロセスを文書化する。</li> <li>・ 先ほど「23業務を1件として契約したもの」について報告した内容を文書化して整理し、2年後の契約に当たる。</li> </ul> <p>業者からの提出書類には日付が記入されていることを確認している。</p> <p>承知した。</p>

意見・質問等	回答
<p>「3.」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院経営検討会とは、新しく設置される組織か。開催実績はあるのか。議事録等は作成しているのか。</li> <li>・ 広島大学病院運営企画会議において、議題として出される備品購入等の検討部会のことか。</li> <li>・ 保守点検の契約について、契約内容がきちんと実施されているか中身まで確認をすることは難しいと思うが、特に高額機器について、保守点検の内容を書面だけでなく実際に確認するようなことはしているか。</li> <li>・ 資料を見ると、物品購入と保守契約を別で契約するか一体で契約するかについて、一体で契約した方が競争原理は働きやすいのかと思えるが、保守料の値引き率が大きくて定価の概念がよく分からないが、定価に妥当性はあるのか。</li> <li>・ これだけ大きい値引き率(65%)というのは違和感を感じざるを得ないという意見があったことだけ留意してもらいたい。</li> </ul> <p>「4.」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年の報告においては、「〇〇を実行した」等の具体的な成果を示すようにしてほしい。</li> </ul> <p>「5.」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に、業者からの提出書類に日付がなかった場合に、差し戻して記入させたということか。</li> </ul> <p>【全体を通して】</p> <p>具申に対して翌年度に報告を行う際、「いつ、誰が、何を」決定して既に実行している、結果はこうなりました といった取り組みの成果を示してもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 審査に先立ち、朝長委員から今回、審査対象とした契約事案の抽出基準について説明があった。</li> </ul> <p>抽出の条件および意図は以下のとおり。</p> <p>＜今回の抽出条件＞</p> <p>＜抽出条件＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 随意契約を優先</li> <li>② 契約担当部署を分散</li> <li>③ 質的量的に重要性の高い</li> <li>④ 役務</li> <li>⑤ 複数の契約で同じ業者</li> <li>⑥ 契約期間が長い</li> </ol>	<p>本年度から設置し、メンバーは病院長、副病院長(経費改善担当)、看護部長、診療支援部長、病院運営支援部長、経営企画グループリーダー、経営改善担当主幹で構成している。今は月1回開催し、議事録も残している。</p> <p>貴見のとおりである。</p> <p>定期点検の報告書の受領のほか、保守契約の中で行った修理実績やそれに本来必要となる費用の情報の提供を受けて記録を行い、実施業務の確認を行っている。また、保守点検契約を結ぶ方がスポット修理等で保守していくよりも安価となることを確認して保守契約を更新するなどしている。</p> <p>物品の購入を検討する際に、他大学に実績を問い合わせるなどして値引きの状況は確認している。また、定価の内訳を提出してもらい、定期交換部品等の一覧、点検にかかる時間など確認している。</p> <p>貴見のとおりである。</p>

意見・質問等	回答
<p>＜抽出条件①～⑥による抽出の意図＞</p> <p>①価格に競争原理が働かない恐れがある  ②抽出される側にも緊張感を与える  ③契約に瑕疵があった場合に影響が大きい  ④モノではなくサービスに対しての価値をどのように判断しているか  ⑤個々の契約では問題がなくとも、総合的に見ると特定の業者との関連が強い  ⑥外部環境の変化により不利な状況を長期間強いられるおそれがある</p> <p>以上6つの抽出基準により、③質的量的に重要性の高いという意味で「広島大学霞地区等感染性廃棄物収集運搬・処理業務」のほか、④役務と③質的量的に重要性の高いという点で「ドクターヘリ運航業務委託」、⑤複数の契約で同じ業者という点で「同一業者との10件の契約」の計3件を議案として抽出した。</p> <p><b>議事1</b>  <b>委員長の選出について</b>  ・学外委員の互選により金田委員を委員長として選出した。</p> <p><b>議事2</b>  <b>案件の審査について</b></p> <p>・審査に先立ち、金田委員長から、「質問等をしていくのは事務的におかしいということではなく、もう少し詳しく説明してほしいという意図で聞きたい。」また、「事務的な処理のことについてや、実際に使用する研究者との関係について聞かせてもらいたい。」との発言があった。</p> <p><b>(1) 広島大学霞地区等感染性廃棄物収集運搬・処理業務</b>  (契約担当部署より契約概要の説明)</p> <p>・廃棄物処理の流れについて、説明を聞いただけでは理解が難しい。一般ごみと混ざることはないのか。収集用のボックスに入れてから、立ち会いのうえ業者に渡す際の流れを説明してほしい。</p> <p>・医療従事者が感染性廃棄物を出すのだろうが、例えば一般ごみとの分別について、張り紙をすとか研修をすとか周知の体制はどのようになっているか。</p> <p>・我々一般の人間は、感染性廃棄物と聞くと放射性廃棄物と同じくらい怖いものと感じてしまう。分別は難しいと思うので捨てる方への周知徹底をお願いしたい。</p> <p>・契約書について、条文数が少なく別紙等で補っている。一方、参考としている他大学の契約書ではかなり細かく守秘義務、補償金、契約解除などについて一つずつ記載されている。どちらが良いのかは分からないが、仮に途中で液漏れや不法投棄が起こった時に誰が悪いのか、責任関係を明確にしておくことが必要と思うが、契約の仕方として現状で問題ないのか。</p> <p>・別表、別紙、別記などで本文に引用部分があり、とりあえず必要な内容は網羅しているのではないと思われるが、問題が起きた際のリスク管理体制について契約の段階から厳格にしておくという認識をまず持っていただきたい。</p> <p>・契約書フォーマットの出所はどこか。契約書フォーマットについては、一度リーガルチェックを受けるべきではないか。</p>	<p>広島大学感染性廃棄物処理マニュアルに則って分別を行っている。収集した後は施設した場所に保管して業者にまとめて引き渡す。  処分場までの同行は努力義務となっており、年に一度、最終処分場で焼却炉に入るまでトラックに同行している。</p> <p>ごみ箱の上に分別法を記載した張り紙をしている。</p> <p>承知した。</p> <p>業務請負契約基準、個人情報の取扱いに係る特記事項、機密保持の取扱いに係る特記事項のフォーマットは、広島大学共通の様式を使用しており、これらを含めて一体の契約書としている。</p> <p>大学に影響の大きいものについては、定型だけでなく、責任の所在を明示しておくようにする。</p> <p>ひな形は法人化前からのものであり、法人化時に修正されたものになる。業務請負契約基準に定める個別事項に該当する項目を、仕様書別紙で一つずつ詳細に記載し個別の契約に落とし込む構成になっている。契約書に一項目ずつ書き込んでいく形式もあるが、その場合は記載漏れなどの危険が高まると考えられる。</p>

意見・質問等	回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 契約している業者は運送会社ではないのか。業者の会社紹介パンフレットには、事業内容はごみ処理施設が中心で、財務諸表を見ても車両運搬具などトラック等は少ないようだが。自社のトラックで運搬しているのか。</li> </ul>	<p>運搬に使用するトラックには、業者の名前が入っている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料を見ると県内の主要な病院と契約している業者のようだが、広島大学病院の契約先だから大丈夫と思われかねないので、大学病院の社会的責任は重いと思う。話を聞くとトラックに積み込んだら終わりという印象がする。例えば先の他大学の例では中間と最終で処理を分けている。一括で任せるとブラックボックスになりはしないか。</li> </ul>	<p>10年ほど前に、中間処理業者が県外から持ち込んだ医療性廃棄物を広島県内で不法投棄する事件があったため、最終処分まで一括でできる業者を選んでいる。中間処理業者を挟むと積み替えが必要になり、それを防止するために最終処理までできる業者になっている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料の技術審査報告書でこの業者が合格となっているが、事務だけでなく、大学全体の問題として廃棄物に対する考えをもって専門家の教員等を含めて、これで大丈夫という確認まですべきではないか。事務的なことは問題なくても、感染性廃棄物の考え方が流れだけになってしまわず、神経を使って処理をしていかなければならない。</li> </ul>	<p>私も技術審査に加わったが、一度は最終処分場まで同行し、炉に入れるところまで確認している。書面と実際の状況に相違ないことを確認して技術審査を行っている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 契約に関して、参考とした他大学ではキログラムあたりで契約しているが、広島大学は箱単位となっており、例えば空箱でも同じ料金になるのではないかと。重量に応じた請求にするべきではないか。満杯になったことを確認してから蓋をして、誰かが検印を押すといった手順があるべきではないか。コスト意識を持ってほしい。契約としておかしいとは思わないか。その意味でも回収用の箱に入れた段階でブラックボックスになるのではないかと。</li> </ul>	<p>収集率の確認もしているほか、医療従事者には可能な限り満杯になってから搬出するよう周知している。また、量の削減を目的に感染症科の教授が主導する形で検討を行い、感染性廃棄物に含めるもの、含まなくてよいものを精査して金額を抑制できた事例はある。しかしその一方で、感染症科の教授は感染制御部にも所属しており、安全の観点からは、回収用の箱が満杯になるまでずっと置いておくことは許容できないと言われている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 費用削減効果が得られたのなら、それを一部だけではなく全体の取組みにして、コスト削減効果を高めてほしい。</li> </ul>	<p>承知した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家の教授が関わっているということで安心した。そういった方に、最後まで一定の責任を持っていただくシステムを作れないかと思う。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染性廃棄物は、通常の産業廃棄物と違う許可が必要なのか。入札に応じたのは1社だけだが、広島で営業している業者はこの1社しかないのか。これ以前はどこの業者に任せていたのか。</li> </ul>	<p>最終処分までできる業者に委託すると大学の方針を決めてからは、この業者と契約している。他に最終処分までできる業者がいるかどうかは勉強不足で申し訳ない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県のホームページを参照して許可業者をリストアップするなど、情報収集することが必要ではないのか。</li> </ul>	<p>貴見のとおりである。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染性廃棄物の特別な部分とは何か、一般産業廃棄物と何がどのように異なり、管理上で注意すべき点は何かをきちんと把握することが、先ほど出たご意見の大学として責任を持ったシステムにつながるのではないかと。この問題は金額も大きいし、もっと勉強された方が良いのではないかと。</li> </ul>	<p>勉強する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 決算書は業者から徴取しているようだが、税務申告書も合わせて提出させてはどうか。損益計算書を見ても販管費の内訳がないようだが、入手できる資料は集めておくべきである。何か起きた時に、大学を守る、身を守るための資料は集めておくべきである。</li> </ul>	<p>承知した。</p>

意見・質問等	回答
<p><b>(2)同一業者との10件の契約</b> (契約担当部署より契約概要の説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単純に、なぜ契約を分けたのか。政府調達を避けるためではなかったのか。契約を10件に分けて行った経緯と、契約担当の判断根拠について教えてほしい。</li> <li>・「たまたま」結果がそうだったというのはその通りかもしれないが、研究者から計画を出してもらい、戦略的な投資をするべきである。今回の結果は「たまたま」ということでよいか。</li> <li>・広島大学両生類研究センターは実績のある研究所だと認識している。顕微鏡などはすでに研究所にあると思うが、新たに買う必要があるのか。また、一社入札になっているのはなぜか。業者に言われるがまま購入しているようなことはないか。研究計画のようなものは、ここでも欲しいように思う。</li> <li>・物品購入の費用対効果は、契約担当でコントロールするべきではないのか。契約担当で他社に代えるとか、コストをチェックするとか、コントロールできているか。</li> <li>・飼育水槽を11月と2月に買っているが、11月の時点で2月のことも頭の中にあっただけではないか。トータルでのコスト削減を教員と一緒に、別の観点で仕組みを検討してほしい。</li> <li>・特に購入時期が近かったものについては、ひと工夫で何とかならないものか。</li> <li>・この10件の購入物品は、この業者しか扱っていないのか。他の業者で扱えるものについては、他の代理店を見つけてくるなど改善を検討してもらいたい。結果として、当初より価格が下がるのであれば、それで良いのではないか。</li> </ul>	<p>まず、10件の契約のうち、1番目から4番目と8番目の契約については別々の教員が請求した個別のものであり、相互に関連性はない。その他の5件は「ツメガエルの飼育水槽システム」となっており一括で契約できたのではないかと質問だが、購入または改造を発注した水槽は、自動飼育の稼働実験を行った後に欠点を改良したうえで次を発注する必要があった。また、設置する各室の設備について排水口の有無や、空間的な余裕の有無のほか、これまでのバケツで水を入れ替える必要があるような古い飼育システムからの切り替えにあたり、飼育作業従事者の熟練度に差があったこと等により個別の発注が必要で、順次契約を行った。</p> <p>貴見のとおりである。</p> <p>まず、1番目の顕微鏡購入で既存の一部部品を再利用しているものは、安くバージョンアップできて、引き続きサポートを受けられる業者のキャンペーンに応じたものと思われる。3番目の分光光度計は藻類の増殖測定などの観察に使用するもので、メーカー・種類が研究目的ごとに最適なものを選定されている。この業者はメーカーではなく販売代理店なので、様々な機器についての情報の提供を受けて活用していると思う。</p> <p>業者から教員への営業があつて、そこである程度決まってしまう部分はある。教員から参考見積などを付した契約依頼が担当者にあつた後に入札方法などを決めることになるが、正直、機器の内容にまで口を出すの難しい。専門的なものほど意見は言いにくい。飼育水槽については、今回購入した水槽と同じメーカーの架台が元々あつたことが大きい。</p> <p>今回の購入品のリストだけ見ると疑念が生じるのも仕方ないように思うが、可能なものは取りまとめるなどしている。科学研究費補助事業などの計画があるものの調達予定等は収集している。まとめた方が事務処理も省ける。</p> <p>教員に少しでも早く物品を購入して届けたいということもある。10件のうち、契約日が同じ3番目と4番目の契約などについては、今後検討していきたい。</p> <p>ツメガエルの飼育水槽は、この業者だけしか代理店がなく、他は8番目の質量分析計の修理についても取り扱えるのはこの業者のみになる。それ以外は他にも代理店がある。</p>
<p><b>(3)ドクターヘリ運航業務委託</b> (契約担当部署より契約概要の説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、ドクターヘリを議案に選んだのは、仮に高い金額で入札して契約したとしても、広島大学としては国と県の補助金によりプラスマイナスゼロになるかもしれないが、大きな観点からすると、元は我々の血税なので適正に入札して金額を抑え、医療と契約のバランスを確保するべきである。入札には契約した航空会社1社のみ参加となっているが、競争性は働いているのか。</li> </ul>	<p>ドクターヘリの運航委託については、厚生労働省から基本方針が示されている。対応できる航空会社は全国に4社あることを確認して契約を行っている。</p>

意見・質問等	回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の3社から見積は取っているか。営業があったからこの航空会社になったということか。</li> <li>・県とも相談し、競合他社にも見積を取るべき。契約の過程について、この案件だけでなく、全ての契約に意識をもって臨んでもらいたい。</li> <li>・資料の中にある契約書(平成25年度から29年度までの契約分)で、途中で変更契約を結んで月額で300万円ほどの増額になっている。燃料費等もコミコミの契約か。県のホームページを見ると平成27年から29年の運航実績で、年に500件前後の出動要請、うち370件ほど実際に出勤しており、ほぼ同じか傾向としては少しずつ減っているようだが増額が必要だったのか。</li> <li>・5年間の契約ということもあり、一度契約すると後で損をしたということもあり得るので、契約期間を短くしたり、他の3社から相見積りを取るなどの取組みが必要ではないか。社会的に高コストで費用対効果が悪いということにならないよう、ドクターヘリは僻地や離島の方には大切な事業であるのだから、継続していくためにもコスト意識は必要である。</li> <li>・運行は仕様書にあるとおり8時30分から17時で、土日関係ないということでしょうか。</li> <li>・今後も災害等で出動が増えるのではないかな。</li> <li>・金額の内訳も含め、4社あるなら見積を取って比較するべきである。</li> </ul>	<p>他の3社は見積までは取っていない。平成25年からドクターヘリ事業が始まったが、それ以前はドクターヘリ「的」事業として、県の管理の中でこの航空会社が受託していた流れを受け継いでいる。</p> <p>変更の経緯としては、運行実績が想定以上だったことによる。契約は燃料費も含め、飛行回数等が関係のないコミコミの契約となっている。平成25年の初回契約時に全国的な運航回数の傾向を見て金額の提示を受けたが、始まってみると飛行時間が多くなった。平均として当初は年間飛行110時間の予定が実際は240時間と差があり、相手側からの申し出があり変更を行った。</p> <p>夜は飛行できない。安全等の問題がありランデブーポイントのようなところに降りることができない。夏場であれば5時を過ぎての出動要請でも飛ぶこともある。市のヘリや県の防災ヘリと3機で協力しながら運行している。</p> <p>先般の土砂災害でも出動したが、夜間は救助が止まるので朝から出動して広島大学病院や他の病院に搬送を行った。</p>
<b>議事3 意見の具申について</b>	
<b>【意見の具申】</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染性廃棄物について、発生元から収集用のボックスまでの流れが一番重要で、確実にボックスまで流すプロセスが大学として大きな課題である。加えて、業者が廃棄物の処理を最後まで全うしていることを確認する姿勢が必要である。また、感染性廃棄物に関しては大学全体で取り組む必要がある。</li> <li>2. 感染性廃棄物収集運搬・処理業務に係る契約内容について、広島大学としてのリスク軽減という観点で再点検が必要である。</li> <li>3. 研究者から研究計画を徴取するなどして、物品の購入等を合理的・効率的に行う工夫をしてほしい。また、なるべく多くの業者が入札に参加するよう努力し改善を図ることが必要である。</li> <li>4. 次回の契約監視委員会で具体的な取組・結果を報告できるよう、意見した事項についてはすぐに対応が必要である。</li> <li>5. 契約監視委員会の審査案件を選定する際の資料である「審査対象契約事案リスト」に、入札参加業者数の表記を要請する。</li> </ol>	
<b>その他</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	